

ごあいさつ

皆さまには、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
ここに、ディスクロージャー誌「第114期営業のご報告(2021年4月1日～2022年3月31日)」を作成いたしましたので、ご高覧いただきたいと存じます。

本誌では、決算概要や業務内容、地域貢献に関する取組み状況などをまとめており、当行について一層のご理解を深めていただければ幸いです。

2021年度の日本経済は、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が続く中、政府が実施する各種施策等の効果もあり、通期では景気を持ち直しの動きが見られましたが、世界的な半導体不足や感染症の流行等による供給制約、ウクライナ情勢に伴うエネルギー価格の上昇や、原材料コストの一層の高まり等によって先行きを見通しにくい状況が続きました。

鹿児島県経済においても、厳しい状況にある観光・飲食関連において、足元では持ち直しの動きが見られるものの、事業環境の回復には相当の時間を要するものと考えます。

このような環境のもと、当行においては2020年度からスタートした第五次経営強化計画に掲げた各種施策に取組み、新型コロナウイルス感染症の影響により、一段と厳しい状況にあるお客さまの支援に注力してまいりました。

地元“鹿児島県”を基盤とする中小規模事業者向け事業性金融専門の金融機関として、ファイナンス支援だけでなく、“WIN-WINネット業務(新販路開拓支援業務)による本業支援”や“デジタル支援を含む経営改善・事業再生支援”の提供に向けて、これまで以上に皆さまのご支援にお応えできるように銀行全体で取組んでまいります。

引き続き「地域に責任を持つ“真の金融機関”」として「南日本銀行グループSDGs宣言」に掲げる地域の課題解決への取組みを進め、持続可能な社会の実現を目指してまいりますので、今後とも倍旧のご愛顧を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2022年7月

取締役頭取 齋藤 眞一



取締役頭取 齋藤 眞一

CONTENTS

- 経営理念・経営強化計画 1
- 当行の考え方 2～4
- 中小企業の経営の改善及び
地域の活性化のための取組みの状況 5～6
- 2022年3月期業績ハイライト(単体) 7～9
- 地域とお客さまの発展のために 10～14
- 組織・ネットワーク 15～18
- 資料編 19～61

シンボル・マーク



「南日本銀行」の頭文字「M」をデザイン化したものです。楕円の1つは南日本銀行であり、もう1つは地域を表現しています。

2つの楕円が緊密な結合をし、地域と銀行、お客様と銀行、人と人との密接な関わり、信頼関係、また、銀行内のしっかりした団結をも意味しています。

「M」は変化し、限りなく拡大するイメージを想起させ、互いに寄り添い、シンプルな形状の中にも、銀行の持つ力強さ、未来性が表現されています。

本冊子は銀行法第21条に基づいて作成したディスクロージャー資料(業務及び財産の状況に関する説明書類)です。本資料に掲載してある計数は、原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しております。

当行の概要



本店所在地	鹿児島市山下町1番1号
創業	1913(大正2)年9月4日
資本金	208億51百万円
店舗数	本支店64カ店 (本支店61、出張所3) ※ブランチ・イン・ブランチ(店舗内店舗)形式での店舗統合による実店舗数59カ店
従業員数	855人 (嘱託・パート・出向者含む)
主要勘定(単体)	総資産 8,806億円 預金残高 7,820億円 貸出残高 5,881億円 (2022年3月末現在)